

もくぞうびしゃもんでんりつぞう  
「木造毘沙門天立像」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（彫刻）平成4年12月24日
- 所 在 地 千曲市大字森字大峯 2650-1 観龍寺
- 所 有 者 観龍寺
- 概 要 檜材、寄木造り、彫眼、漆箔彩色
- 法量 像高 115.5cm 髮際下 100.0cm 面長 12.4cm  
面幅 11.5cm 面奥 14.6cm 腰張 32.2cm
- 時 代 15世紀（室町時代）
- 公 開 事前に観龍寺（☎026-272-1983）に申し出て拝観してください

本像は後の補修が多く玉眼、彩色等はすべて江戸時代に補われたものですが、本像の基本となっている頭軀幹部は、15世紀に造像され、主尊の千手観音坐像の脇侍として安置されたものです。

頭頂は短髻で、右腕は高く挙げて戟を握り、左腕は臂を曲げ掌を上には宝珠を捧げる形ですが、現状宝珠は欠失しています。腰部を左にひねり左脚に重心をおき、右脚は膝を屈し、両脚で邪鬼を踏みつける姿勢をとっています。

彩色は胡粉地に弁柄・緑青・藍・金泥・墨彩等で極彩色に彩ります。胸甲左右に金泥地に宝輪文、腰甲は金泥地に藍・緑青で亀甲文、その中に蕊と蓮子の文様があります。

玉眼は、円形白地に墨彩金泥で二重縁取り、その中に瞳を墨描し、眼球左右端は水晶地のままとし通例とはやや異なります。また面部の眉・口髭は墨描による毛描き、唇を朱彩で彩ります。

邪鬼は巻髪、彫眼で愛らしい面貌です。全体を弁柄彩として、眼部に金泥・墨彩を施します。背上に像部を差し込む柄穴を設けるが一致していません。邪鬼は毘沙門天像の補修の際に補われたものと思われます。

